第 2015-08 号

恵みと真理のニュース

2015 年 2 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　若い時から主の御言葉を耳に傾け主と共に勝利するように導いてくださる恵みに感謝します

私は青年奉仕宣教会で奉仕している姉妹です。中高等学生の頃友達に伝道され何回教会に行って礼拝と集まりに参席しました。御言葉を聴き聖書を習わなくて神様に対する信仰はなかったです。
篤実な信者であった祖父が遺言で“私が死ぬなら絶対に祭祀をしないくて礼拝を捧げなさい。”と言われました。それで祖父の命日の時には全ての家族が集まって家庭礼拝を捧げました。叔父が熱心に主を信じたので礼拝を導きました。一番い夢中で勉強している高校3年生時に祖父の命日に集まって礼拝をする時に“見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。”（ヨハネの黙示録　3：20）御言葉を読み皆に心を開いてイエス様を受け入れ信仰生活をすることを勧めました。
学校と読書室で勉強して忙しかった高校3年生が終わって時間的に余裕が出来ました。ふっと教会に 行きたくなりました。叔父が伝えた御言葉が私の心を動かし、私を特別に愛してくださった祖父が聖書を読みながら私の家族のため祈った姿が思い出したからです。
そんな私のため母は教会に通う一人の区域長を紹介しました。恵みと真理教会を熱心に仕える区域長でした。その方の導きの中で信仰生活を始めました。休まずに熱心に礼拝に参席すると御言葉の恵みと聖霊で創造主であり救い主である神様の存在を確実に信じるようになりました。イエス様を私の救い主として受け入れ信仰告白もしました。初信者の時に心が痛くても教会に行くとすぐ治ると思って教会に礼拝を捧げ祈ると礼拝が終わって家に戻ってくる時に体が治る体験もたくさんしました。いくら大変な問題があっても祈ると心が下さる平安と自由が望むことを感じました。そして、もっと神様を信じ委ね教会をもっと愛するようになりました。礼拝中心で信仰生活をすると教会で献身している方々が私にも奉仕すると勧めました。神様に従順する心で青年部で聖歌隊員として奉仕をはじめ教会学校の小等部の教師としても子供を仕えるようになりました。奉仕して大胆な信仰になるようになり、教会で送る時間がこの世のどこでも経験できなくて得られないほど楽しくて幸せな時間にでした。
他人のため祝福の祈りをする事が幸せで私の経験を通して信仰が弱い兄弟姉妹と幼い学生達にも勧めると信仰深くなることが真のやりがいがあり楽しい事でした。聖歌隊で奉仕しながら“わたしはこの民をわたしのために造った。彼らはわたしの栄誉を語らねばならない。（イザヤ書43：21）御言葉の意味を深く悟り主の前で完全な信仰で賛美をすることに力を尽くしました。教会学校で奉仕して学生に御言葉を教え信仰が育つため熱心に勉強して御言葉を黙想して神霊な知識を持つようになりました。はじめはすべてのことが足りなくて神様の助けと聖霊の恵みに頼り最善を尽くして努力し祈ると神様はいつも権能を与え知恵もくださいました。神様の清い職分と使命を与える時に従順すると時によって助けてくださる恵みと担える力ができる事を悟りました。
大学を卒業をして就職をする時期でした。大学に通う4年間信仰生活は自分なりに熱心にしましたが、卒業以後とくに目標を持ってなくて就業する事が大変でした。熱心に就業だけ準備した友達も入社試験に失敗しました。現実的に就職難の悩みと漠然とした未来の悩みなどで心理的な圧迫を受けて否定的な考えをする時に全ての悩みを主に委ね祈り始めました。“人間の心は自分の道を計画する。主が一歩一歩を備えてくださる。(箴言16：9)御言葉を強く信じ若い時に主のためもっと愛と熱情で献身するように神様の栄光を覆わなく信仰の子供のようにビジョンを下さり人生の道が開かれるように祈りました。すると“ 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”（ロマ書8：28）御言葉で私の心に慰めと平安を下さり神様の時と摂理を待ちながら祈りました。
御言葉を信じ続けて祈る時にまず神様はビジョンに対して答えてくださいました。良い職場で働いて有名な人になるよりもっと重要なことは福音を伝え神様を捧げる事を悟らせました。神様を仰ぐより人々から良く見える職場を願った私を姿を悔い改めました。私が世の欲望を捨て神様の栄光と主の喜びとキリストが尊くなることを目標を持って祈ることを悟りました。就職の準備をしながらはじめて私の人生の目的と希望がイエスキリストになりました。
そして　神様の助けと摂理で就職をしました。神様に感謝する事は発展可能性がある大きい分野で仕事をする機会を与えたことです。神様は私とともにおられ人生を導いてくださる事を考えると限りなく嬉しいです。与えてくださった恵みに感謝し会社を通いながらも礼拝生活も忠実にして奉仕することも疎かにしないように努力しました。今は神様が下さったほかの夢を適えるため職場を辞めて熱心に祈り勉強しています。今まで共にしてくださり新しい目標と希望も答えてくださることを信じます。
私に大きくて驚くな恵みと愛を与えて下さる神様に感謝と賛美を捧げます。そして主の中で後輩青年達たちが人格的に神様に出会い人生の全ての問題が解決され相変わらず主を愛し主と共に行き、伝道することが目的になることを願い祈ります。

［信仰コラム］　心配に対する聖書的対策

まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。(マタイによる福音書, 6:25~34)

心配と懸念を何ともなくして見れば癖になって病み付きになります。 このような習慣は百害あって一理なしします。 心配は身の健康を破壊します。 不眠症、胃腸病、高血圧、心臓病、頭痛、視力喪失などを発生させるとか悪化させることができます。心配は精神にも打撃を加えます。 神経衰弱、鬱病、神経質、無気力症、判断力喪失などを誘発させます。 心配は霊的に悪影響を及ぼします。 心配で聖書に行き違った手段と方法で問題の解決を試みるとか惑いを受けて誤った霊に接触するようになります。 極甚な心配は信仰を緩みさせて彼と接触する人に否定的な影響を与えます。 だから聖書には心配するなと言いました。 その理由と対策もおっしゃっています。
まず、イエス様は心配してはいけない理由をおっしゃいました。

第一理由は、私たちに命をくださった神様が生活に緊要なものなどをくださるのが当然の事であるからです。(マタイによる福音書 6:25) 二番目理由は、神様がその子を非常に貴重に思うからです。（マタイによる福音書 6:26,28～30) 神様の子に対して神様が特別な関心を持って助けて導きます。 三番目理由は、心配するのが問題解決に何らの役に立たないからです。（マタイによる福音書 6:27) こういうので心配してはいけないです。
次に、イエス様は心配に対する対策をおっしゃいました。
″まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて
与えられるであろう″ しました。 これは心配に対する対策として一番最高になる原則です。 このお言葉には神様の国と神様の義に適当な生活をしなさいという意味が込められています。 例えば、誠実、勤勉、正直な生活です。 まじめで勤勉で正直に生きる者に神様が全能な手を突き出して加えます。 またこのお言葉には、神様まず、神様第一に生活しなさいという意味があります。 私たちがするすべての事が主の仕事を中心に調整されて配列されなければなりません。
ペテロがヤコボとヨハネとともに ガリラヤの海べに漁夫を出ました。 一日晩中網を投げたがさかな一匹も取る事ができなかったです。 朝に精根がつきて浜辺に出て網を整理している時、イエス様に付く群れが近付きました。 イエス様がペテロに船を貸してくれる要請しました。 ペテロは自分の仕事より神様の仕事をまず受け入れました。 船の上でお言葉を終えたイエス様がペテロに ″深いところに行って網を下げて魚を捕りなさい″ しました。 ペテロがお言葉どおり行うと果して驚きべきが起こりました。 仲間を呼んで網を引き上げても船に満たしたら船が水に沈むほどにさかながたくさんつかまりました。 ペテロがイエス様のために船を提供して、時間を提供して、自分の仕事より神様の仕事をまず立たせると神様がその船に魚を押して振ってあふれるように満たしてくださいました。

″まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて
与えられるであろう″ と言った神様がそのお言葉をペテロに実際に適用させて見せてくれたのです。 このお言葉の信実を一二回体験するようになればまず神の国と神の義とを求めるのが心配に一番立派な対策であるのを干証しなければならなくなります。
もちろん明日についてどんな考えもしないことはクリスチャンの正しい信仰行為ではないです。 未来に対する計画と準備は必要です。 ただ心配しないで 一瞬間一瞬間に最善をつくして生きて行って明日を計画して準備するようにイエス様が教えました。 あなたがたの会った試錬で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試錬に会わせることはないばかりか、試錬と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。(コリント人への第一の手紙,10:13) そしてまず神の国と神の義とを求める者に神様がこのすべてのものを加えてくださると約束しました。このお言葉が皆さんに心配しない生の理由でまた対策がなるように願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私はイエスキリストを信じます

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

キリスチャンの信仰は全面的に聖書に根拠したのです。聖書は歴史、律法、 詩歌 、予言、書信で構成されています。 その核心は “神様の子イエスキリストを通じて罪人を救われる神様のみ旨と成就に対する啓示”です。 他に言って聖書は神様がくださる救いの恵みと真理が啓示された本です。 このような内容を体系的に整理したのが教理です。 だから教理を学ぶことは健全な信仰を持って躍動的な信仰生活をするのに非常に有益です。 まるで人の身で骨と筋肉を丈夫にさせることのようです。 使徒信條はその教理の要点を取りまとめて作った信仰告白です。 今日は使徒信條の中で “その独り子私たちの主イエスキリストを信じます”をよく見ます。

先に “その独り子”と言いました。

イエス様を “神様の子”と呼ぶ場面が聖書に多くの所に記録されています。 イエス様が洗礼を受けて水から上って来る時天が開かれて聖霊が鳩のように下って自分の上に臨むことを見ました。 ちょうどその時天から音声があっておっしゃるのを “これは私の愛する子である。私が彼を喜ぶ。” と言いました。 (マタイによる福音書 3:16,17) イエスキリストがペテロとヤコボとヨハネを連れて別に高い山に上がりました。 弟子は疲れて居眠っていたが急に燦爛たる光が照らすので弟子が目を開いて見たらイエス様の姿が変わって顔は日のように輝いて服が光と同じく白くなりました。 また驚くべきなことはモセとエリヤが現われてイエス様と一緒に話しました。 そしてから忽然と輝く雲が彼らを覆い被せながら雲の中で音がするのを “「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け」” しました (マタイによる福音書 17:1-5)
イエス様を神様の独り子であるとおっしゃったお話の意味はこのようです。イエス様は私たちのように肉身を持ったが父神様と同等な本性を持っているしイエス様には充満する神聖と無限な知恵と能力と聖なるのがあることを示しています。 ヨハネによる福音書 1 章 18 節に記録されるのを “神を見た者はまだひとりもいない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。”と 言いました。 ヘブル人への手紙, 1 章には “神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。”(ヘブル人への手紙 1:1-3)で記録されました。

神様が独り子を世の中に送ったことは人々を向けた神様の至極な愛を現わしたのです。ヨハネの第一の手紙 4 章に記録されるのを “神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。” (ヨハネの第一の手紙, 4:9,10) としました。
イエス様は神様から送られて救われる者として人間をすべての罪悪から救われるためにこの世の中へいらっしゃった神様のイエスキリストです。 “神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”(ヨハネによる福音書 3:16)で宣布されました。 イエス様は唯一の救世主です。他の救世主がありえないです。 “神様のイエスキリスト”と呼ばれる方はイエス様だけであるからです。 使徒ペテロはユダヤ社会の宗教リーダーと権力者の前にひかれて行って脅迫を受けながらも大胆に言いました。 “この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。”(使徒行伝 4:12) しました。

次は “私たちの主”と言いました。

イエス様は私たちの神様です。イエス様は彼を信じる者の神様であるのみならず全宇宙の主人になります。 ピリピ人への手紙 2 章 10 節と 11 節に啓示されるのを “それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。”と 言いました コロサイ人への手紙 1 章 15 節から 17 節にはこのように記録されました。 “御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。”.
イエス様を神様で信じる人は人類歴史をイエス様の中心に計算して解釈します。 実際に人類歴史はイエス様を中心に計算されて記録されています。 歴史の連帯を記述する時 B.C. あるいは A.D. と表記します。 B.C. (Before Christ)は “キリスト誕生以前”を意味します。 A.D. (Anno Dommini / in the year of our Christ)は “神様の時に”という意味でイエス様の誕生以後を意味します。 イエスキリストは歴史の分水嶺です。
イエス様を神様で仕える人はイエス様がおっしゃったお話の権威と権勢の下で全幅的に従順しながら暮すことが当然です。 私たちがイエス様を口だけで神様と呼ぶのではなく実際に神様で仕えなければなりません。 イエスキリストが弟子におっしゃるのを “それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。”(マタイによる福音書 16:24)と言いました。

イエスキリストが私たちに負いなさいとおっしゃった十字架は自分を否認するための十字架を言います。 自分を否認しなさいということは神様のみ旨、神様の要求、神様のお話を逆う自分の主張、理論、思想、哲学、習慣、趣味、そしてその何でも神様のみ旨に相反することを皆十字架にくぎを打ち込みなさいというのです。
イエス様を神様で信じて仕える人は自分の人生観、価値観をイエス様の中心に決めます。 生の目標をイエス様の中心に建てます。 イエス様が生の中心になると私たちの生が秩序と安定を持つようになります。 真正な幸せを享受することができるようになります。

その次は、“イエスキリスト”と言いました。

‘イエス’という名前はイエス様の誕生の前に天使がヨセフに指示した名前です。 “彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」。”(マタイによる福音書 1:21) しました。 イエス様は父神様から送られて罪人を救いしようとこの世の中へいらっしゃいました。
‘キリスト’という呼称は‘油を注がれた者’という意味を持っています。旧約聖書に見ればユダヤの国では王、祭司、予言者を立てる時には油を注いで将立しました。 その頃この職務は厳格に三権が分立になって他の領域を侵犯することができなかったです。 しかしイエス様は王、祭司、予言者の職務を皆持ってあがない使役をすべて成しました。 予言者は神様のみ旨を伝えて未来を予言する仕事をします。イエス様は予言者の職務を遂行しました。 祭司は人のために神様にお供えを差し上げて祈る事をします。イエス様は自分を和睦のお供え、あがないお供えで差し上げました。そして私たちのために祈ります。 王は権勢を持って民を治めながら保護する事をします。 イエス様は王的な権勢と権威で活動しました。 イエス様は予言者、祭司、王として職務を皆完全に遂行したキリストです。 誰でも全能であて天地を作った神様を信じることだけで救いを得ることができないです。神様の独り子私たちの主イエスキリストを信じると救いを得ます。 人があらゆる知識と技術を慣れても “神様の独り子主イエスキリスト”が分からなければ終局には一番可哀想で不幸な状態になってしまいます。

“その独り子私たちの主イエスキリストを信じます”と暗誦する信仰告白に盛られている内容を整理すればこのようです。 1. イエス様は神様父と同等な本性を持った神様の独り子であるのを私は信じます。 2. イエス様は宇宙と歴史と私たちの生に主人で中心になる神様であるのを私は信じます。 3. イエス様は自分の民を彼らの罪から救われる救主であり、私たちに神様のみ旨と将来ある事をおっしゃってくださって中保になって 王的な権勢で治めて保護するイエスキリストであるのを私は信じます。 歴史上そして永遠になるようにイエスキリストという名前より私たちに貴重で尊い名前はいないです。 イエスキリストが誰かを本当に分かるようになればイエスキリストの名前にひざまずかない者がいないし、その名前を讃尿しない者がいないです。 皆さんは “その独り子私たちの主イエスキリストを信じます。” と告白する幸せが分かりながらこれを無限に感謝して喜ぶように願いします。